

田中祐理子「パンデミックと差異の再構成」

- ・ 歴史の重要性→ケヴィン・ケリー（via 戸田山）にも通ずる？
- ・ 問題を「再開」すること
～なぜ過去の教訓を（社会は、個人は）「忘れて」しまうのか？
- ・ “communes”
 - ※共有する人々の「範囲」は？
 - ※再創造のプロセスすらシステム化＝既得権益化されつつある？
- ・ We/they, 「語りようがない当事者たち」
 - ※言葉は届くのか……

林芳紀「パンデミック対策と生命倫理」

- ・ 公衆衛生倫理、新型フルー、SARSなど
※現行生命倫理の背景にある西洋エピステモロジーの影響は？
～東アジア社会では異なる社会的状況、文化的背景があるのでは？
- ・ 「答え」を出すことの難しさ【→田中講演と共通】
- ・ 特定の「価値」にもとづいていることの自覚化、明示化
※同意しつつ、難しそう……
- ・ 信頼向上、連帯促進のための倫理的枠組み→互惠性をどう考えるか
※互惠性を担う主体は誰／どこか？ 国か、個人か、企業か、地域か？

青野由利「科学ジャーナリズムの視点から」

- ・ 2009年新型インフル時の振り返り→同じ問題群が指摘されている【cf. 田中】
 - ※韓国、台湾のMERS体験との違い、被害の度合い？
- ・ 専門家の人材育成
 - ※日本の科学・技術の総合的水準に関わる問題か
- ・ 専門的知見と政治的意思決定の関係、専門家組織が独立でよいのか
 - ※政治家が責任をとるというのもうまくいかないのではないか
- ・ 科学的知識の不確定性も含めたリスクコミュニケーションを
 - ※同意しつつ、それで世間は許してくれるのか？

全体コメント

- ・ 「答え」ではなく「問い」や「枠組み」を提示することの意義
- ・ 理論と実践の相互往還をどう実現、確保するか
- ・ 「学術的に扱う」こと自体による分断の強化とどう向きあうか
- ・ リスクやコミュニケーションの学術的位置づけ、人材育成
- ・ 科学的知見（データ、数値、統計）を日常生活の文脈でどのように使いこなすか
 - 日常生活の科学技術、専門家と社会の間の「縁側」が大事